

## 013 カエル発想法その4 「大きくしてみよう」

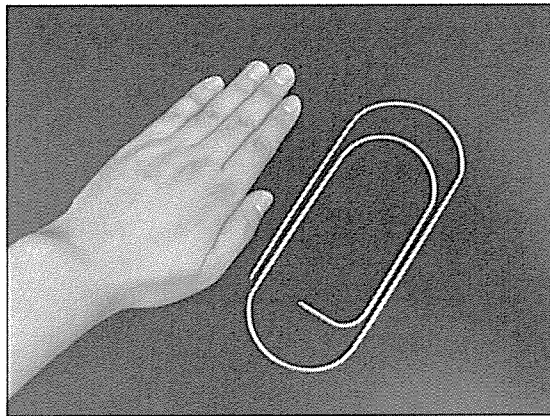
大きくするというのは、長さや高さ、厚さなど、商品を構成する要素のどこかを拡大するという意味です。キーワードは「重、厚、長、大、多」です。

### 穴を大きく

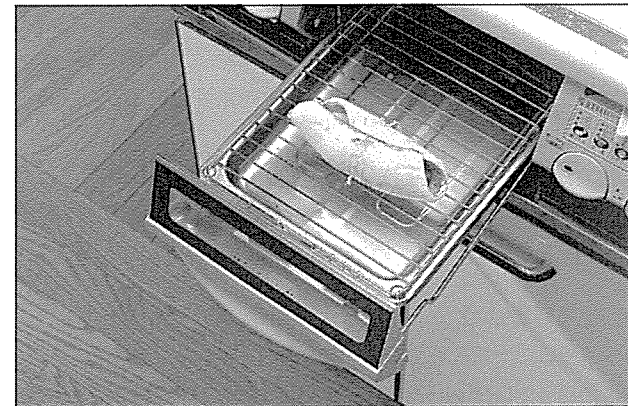
大きくする発想で有名な例は、「味の素のフタの穴を大きくし、穴の数も増やす」アイデアです。調味料の消費量を上げて売り上げを伸ばすため、というわさがありました。しかし、味の素のホームページによれば、実際は、湿気による目詰まりを防ぐためのようです。食卓だけでなく、湯気などの湿気が多い台所での使用も普及してきたことで、場所に応じた穴に対する工夫が求められた一例です。

### クリップを大きく

次に紹介するのは、縦20センチ、横8センチもある超特大クリップ。



さて、何に使うかわかりますか? 「大きい書類用?」などのように、文房具を想像した方は不正解。



正解は、「いかクリップ」という、イカを挟んで焼くための調理器具です。生イカは焼くと皮が縮むため、丸まってしまう。当然、まんべんなく上手に焼けません。しかし、このいかクリップを使うと、イカが丸まるのを押さえ、きれいに焼くことができる、素晴らしい商品です。生イカの他、スルメを焼くときにも活用できます。

### 📌 大きいことはいいことだ

大きくして「願望をかなえた」商品もあります。

「子供の頃の夢」というキャッチフレーズで販売されているのは、高さ10cmほどのミニバケツで作られた「バケツプリン」です。たくさん食べられる満足感が売りの商品です。

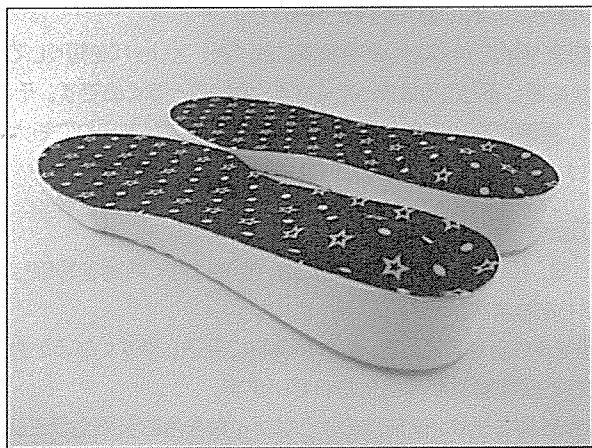
バケツを容器に使う、商品の面白さもさることながら、ネーミングにも注目すべきポイントがあります。大盛りであることを直感的に伝えるために、単なる大容量という意味の「大盛りプリン」ではなく、あえて「バケツプリン」とネーミングした点がポイントです。

商品そのものだけでなく、ネーミングのイメージも拡大させたのは、この発想法を利用した面白い例といえるでしょう。

ということは、バケツ以外にも「大容量のイメージ」が定着しているもの。たとえば「どんぶり」「桶」「鍋」「タンク」「ドラムカン」「バスタブ」「洗面器」「タライ」「プール」「ダム」と、ネーミングに使えるようなモチーフの開拓は、まだまだできそうです。

### 📌 背を高く、美しいスタイルに見せたい!

背を高く見せるために、靴のインソール(中敷)を厚くした商品も、この発想法に当てはまるアイデアです。



もともと、厚底にしたシークレットシューズは、身長が低い男性のコンプレックス解消を目的にした秘密のグッズとして知られており、どちらかというとなガティブなあまりよいイメージの商品ではありませんでした。

しかし、今では足が長く見え、ひざや腰の位置が上がり、スタイルがよくなる美容商品として、若い女性に人気の商品となっています。

希望する身長になるように、中敷の厚さも選べるファッション性を特徴とした商品にしたことで、新商品として見事に生まれ変わりました。

それなら、「靴を脱いでも身長が変わらないように、靴下を厚底にすればよいのでは」と発想を広げていけば、また新しいアイデアを発想することができます。

身の回りの色々なもので、「重、厚、長、大、多」を試して、どんどんアイデアを出してみましょう。